

国際センター通信(No.120)

日本建築学会と土木学会との協働

土木と建築という分野は、分野外の人にとっては何が異なるのか正確にはなかなか言えない分野でありながら、教育・研究分野、業界、官庁関連部署としては明確に区分されている。日本建築学会は1886年創立であるから、それ以来両者は明確に区分されてきたことになる。

建築も土木もそれが範ちゅうとする分野は広く、日本建築学会の論文集は構造系（材料・施工を含む）、計画系、環境系と大区分され、土木学会の論文集も構造系、水系、地盤系、計画系、材料系、施工系、環境系などに区分されている。どちらも社会科学的要素も含んだ総合学問である。区分の名称からも明らかのように、材料・施工を含んだ広い意味での構造系、計画系、環境系は、両学会で共通している。例えば、私の専門分野では日本コンクリート工学会が存在し、土木と建築両分野の専門家が共に活動しているが、土木学会と日本建築学会の中でも、個別にコンクリート分野の専門家が委員会活動をしている。総合学問領域という共通性、学問領域の一部が共通しているという点、この2点が土木学会と日本建築学会の特徴と言える。

2021年11月に両学会の間で交わした覚書により、両学会が公に共同で行う活動を実施することになり、共同タスクフォース(TF)が立ち上がった。元々、類似した課題を持っている両学会であるが、定常的にかつ公にそれらの課題に対し共同して活動する仕組みを持っていなかった。両学会の専門家からなるTFの中では活発な議論が交わされ、活動対象となる課題が決まった。協働することに対する両学会員の意識調査、土木・建築の社会価値と協働の方向性検討、災害対応連携、カーボンニュートラル対応、デジタルトランスフォーメーション(DX)、土木・建築の設計の基本作成の六つの課題に対しWGが設置された。これらの課題は、土木・建築分野の中の共通する専門分野の学会(日本コンクリート工学会のような学会)で対応し切れる課題ではなく、また、両学会が個別に対応するのでは不十分あるいは困難な課題とも言えよう。近年多発する水害、地盤災害といった自然災害は、その現象解明は土木分野であるが、被害を受けるのは土木・建築双方の構造物であり、都市などを含む地域である。災害対応連携はまさに総合学問である土木と建築とが協働して初めて可能なのである。DXの中では、IT技術としては同一のCIMとBIMとが土木・建築で個別に展開されつつあるが、土木・建築施設が一体となるような場合、CIMとBIMとが整合が取れている方が都合が良いのは自明である。



撮影：伊藤留美子（写真家）

上田 多門
土木学会 第110代会長

上記に示した課題は土木・建築を超えた社会的にも重要な課題であり、社会に見える形で成果が出されれば、国内的には他の工学分野と比較して地盤沈下が見られ、国際的にはその研究成果・技術開発で地盤沈下が見られる土木・建築分野の救済策ともなることが期待される。協働の成果を社会に積極的に示すために、土木学会としての情報発信に加え、両学会誌の共同企画も定期的に行っていくことが予定されている。ご意見などを土木学会 (<https://committees.jsce.or.jp/chair/>) に寄せていただければ幸いである。



札幌の街並み

土木技術者の国際化実践小委員会 長大橋 WG

「海外事業における長大橋技術・ヒトの継承と発展」

シンポジウム(2022 年 8 月 5 日)

1. はじめに

現在、土木技術者の国際化実践小委員会では、6つのテーマとそれぞれに対するWG活動を進めており、長大橋WGでは、長大橋に関する人材及び技術の国際化に関する調査及び検討を行っている。今回、本WGの活動の一環として企画した本シンポジウムは、我が国の長大橋に関する人材育成と技術開発を対象に、国家的な海洋架橋プロジェクトにおいて、我が国が世界的に躍進するに至った進出経緯や実績を振り返るとともに、これからの国際展開のための取り組み、備えるべきことについて議論することを目的とし、2022年8月5日に開催した。

2. シンポジウム概要

本シンポジウムは、基調講演とパネルディスカッションの2部構成とし、これまで海外での長大橋の海洋架橋プロジェクトなど多くの経験と実績をお持ちの3名の技術者に講演者・パネラーとしてご参加いただいた。なお、今回のシンポジウムは、会場とオンラインによるハイブリッド形式としたことで、国内外から400名規模の参加をいただき、盛大に開催することができた。

(1) 基調講演

川上 剛司氏 ((株) IHI)より、「長大橋技術によるトルコでの橋梁事業の持続的展開」と題し、第2ボスボラス橋や新ゴールデンホーン橋建設プロジェクトほか、海外における大規模海洋架橋プロジェクトへの取り組み経緯、長大橋技術・人材育成や技術伝承を複数の事例を取り上げて紹介いただくとともに、将来に向けての海外展開・展望を講演いただいた。

(2) パネルディスカッション

3名のパネラーを交え、「長大橋技術の伝承・発展－“ヒト”に主眼を置いて」をテーマに、①これまでの人材育成・抜擢方法や技術とヒトとの関連付け、②今後の日本の世界市場への長大橋技術展開と技術者の育成・技術伝承方法等について、管理者・コントラクター・コンサルタントの立場より意見交換・議論いただいた。

令和4年度会長プロジェクト 土木グローバル化総合委員会
土木技術者の国際化実践小委員会

「海外事業における長大橋技術・ヒトの
継承と発展」シンポジウム



2022年 8月 5日(金) 9:30-11:30
会 場：土木会館 講堂 *ハイブリッド形式 (ZOOM利用)
主 催：(公社)土木学会 土木グローバル化総合委員会・土木技術者の国際化実践小委員会
参加費：無料
URL <https://committees.jsce.or.jp/2022/President/Project02/node/13>
TEL 03-3355-3452 (土木学会 国際センター 担当：澁谷、荒井)

※CPD認定プログラム
(認定番号：JSCE22-0833、単位数：1.7単位)



3. おわりに

長大橋 WG は、本シンポジウムの開催に続き、有識者へのヒアリング、関連イベント開催、海外プロジェクトの現場視察等の活動を今後も検討・企画する予定である。これらの「実践」活動を通じて、参加メンバーが様々な経験と知識を得て、自己が国際的に活動できる方向性を定める機会となることを目指す。

最後に、本シンポジウム開催にあたり、多大なご協力をいただきました本委員会・WG メンバー、国際センターならびに講演者・パネラー、関係者様方に厚く御礼申し上げます。

【シンポジウムプログラム】

「海外事業における長大橋技術・ヒトの継継承と発展」シンポジウム (2022年8月5日)

◆ 総合司会：大倉 章弘（長大橋WG副リーダー、本州四国連絡高速道路(株)）

(1) 開会挨拶：小沼 恵太郎（土木技術者の国際化実践小委員会 委員長、
パシフィックコンサルタンツ(株)）

(2) 基調講演：川上 剛司（(株)IHI）

(3) パネルディスカッション

- ・司会進行：井上 学（長大橋WG副リーダー、(株)IHI）
- ・パネラー：川上 剛司（(株)IHI）
福永 勸（本州四国連絡高速道路(株)）、
深谷 茂広（(株)長大）

参加者（約400名）

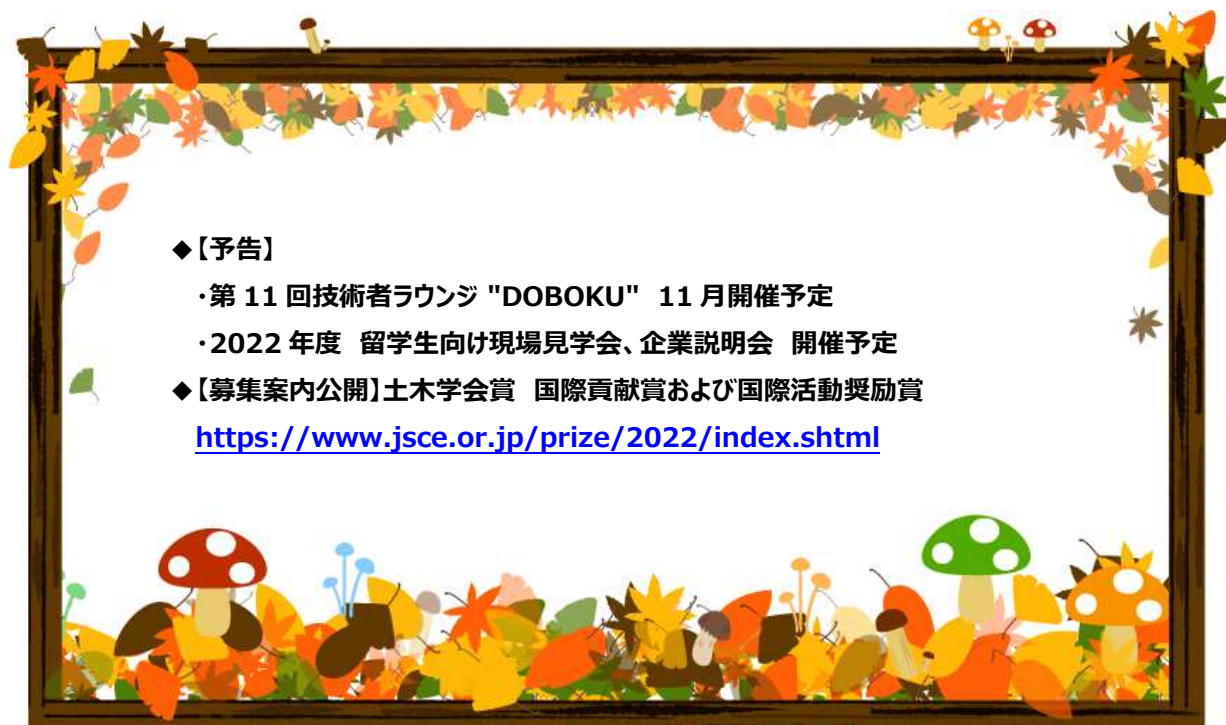
会場（JSCE）
+
オンライン

(4) 閉会挨拶：曳野 誠也（長大橋WG副リーダー、大日本コンサルタント(株)）

【記：曳野 誠也（大日本コンサルタント株式会社 海外事業部 事業室）】

お知らせ

【今後の予定】



◆【予告】

- ・第 11 回技術者ラウンジ "DOBOKU" 11 月開催予定
- ・2022 年度 留学生向け現場見学会、企業説明会 開催予定

◆【募集案内公開】土木学会賞 国際貢献賞および国際活動奨励賞

<https://www.jsce.or.jp/prize/2022/index.shtml>

◆ふくろう多門のビデオレター No.4 を公開しました

https://www.youtube.com/playlist?list=PLRALmeewpTqoKp7gGhXqoh_b_pNvYO9oH

◆令和 4 年度 土木学会 会長室

<https://www.jsce.or.jp/president/index.shtml>

- ・「多門に多聞&多問」* 上田会長へのご意見、ご質問をお待ちしております。

<https://committees.jsce.or.jp/chair/node/59>

◆JSCE-ASCE Infrastructure Resilience Research Group ホームページ

<https://www.infraresil.jp/>

◆「海外インフラプロジェクトアーカイブス (JSCE ウェブサイト英語版)」

<http://www.jsce.or.jp/e/archive/>

◆「国際センターだより」※JSCE ウェブサイト (日本語版)

http://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac_dayori_2021

◆第 184 回論説(2022 年 9 月版) オピニオン

- (1) 土木のビッグピクチャーに寄せて

<https://note.com/jsce/n/n323522c2c01a>

◆土木学会誌 2022 年 10 月号 ※JSCE ウェブサイト (英語版)

<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>

◆大河津分水通水 100 周年 関屋分水通水 50 周年記念 6 館リレー展

<https://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu100th/shousai/6mrelay.html>

◆JICA グローバル・アジェンダ 開発途上国の課題に取り組む 20 の事業構想

https://www.jica.go.jp/TICAD/ja/overview/publications/global_agenda_20.html

◆The 9th International Conference on Flood Management (ICFM9)

<https://www.icfm9.jp/index.html>

- ◆【アブストラクト募集中】The 4th International Conference on Transportation Infrastructure and Sustainable Development (TISDIC 2023)
<https://tisdic2023.dut.udn.vn/>

配信申し込み

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム

- ・日本語版: (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・英語版: (<http://www.jsce-int.org/node/150>)



英語版 Facebook

直近の国際センターの活動について紹介しています。
(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)

【ご意見・ご質問】JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp 皆様のご意見やコメントをお待ちしております。